関西自然保護機構会誌 *23*（*1*）：*79－80, 2001*

近畿地方から絶滅した植物 9

村　田　　源

Extinct plants from Kinki District, Japan. 9. Gen Murata

ノカラマツ　*Thalictrum simplex* L. var. *brevipes* H. Hara（Hara, 1952）キンポウゲ科

山や丘陵の草原－やや湿った草地に生える多年草。茎は直立して高さ１m内外となり，あまり分枝しない。葉は茎の下部では２－３回羽状複葉，上部に行くにしたがって次第に小さくなり１－２回３出羽状複葉となって，裂片も細くなる。小葉は長楕円状のくさび形で，多くの個体では先が３裂しているが，個体変異が多く，大きな株では小葉が倒卵形で基部も円くなり，長さ３－５cmになるものもある。

本州と九州の限られた一部の草地に野生していることが知られ，海外では朝鮮半島の一部と中国に点々と分布する（王文采・王蜀秀，1979）。

近畿地方では大阪府の金剛山の一部の草地にだけ生育していることが知られていた（堀，1962；桑島，1990）。環境庁の「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　植物」では絶滅危惧Ⅱ類（VU）とされている（環境庁，2000）。

私は金剛山へ登る途中，1962年と1964年に伏見峠附近の草地（標高約900 m）で採集している。標本（Murata No. 19094, No. 27084）は京都大学総合博物館に保管されている。近年金剛山では全く姿が見られなくなったということで，大阪府レッドデータブックでは絶滅となっている（大阪府，2000）。茨城県，栃木県，千葉県，長野県，岡山県，熊本県，大分県，宮崎県ではまだ健在らしいが，宮城県，神奈川県ではすでに絶滅したらしく，青森，岩手，福島，群馬，埼玉，富山，福岡，佐賀，鹿児島の各県では絶滅が危惧されている。



図１． ノカラマツ *Thalictrum simplex* L. var. *breuipes* H. Hara. 大阪府金剛山，1939. 9. 16. 桑原正二採集の標本，大阪市立自然史博物館にて藤井伸二撮影.

本種は日本がかつて大陸と地続きであった頃に，大陸と共通に分布していたと考えられる大陸系遺存植物の一つである。

日本が現在の地形になってからは，シベリア高気圧から吹出す冷たい乾いた空気は，暖流が流れ込んでいる日本海を渡る間に，加温，加湿され，日本海側の山地に多量の雪を降らせる。しかしノカラマツが分布を拡げていた頃（第三期以降のかなり古い地質時代と考えられるが詳細は不明），即ち日本が大陸の東端で陸続きであった頃には今の満州・蒙古あたりと似た気候が直接日本に及んでいたにちがいない。大陸系遺存植物と考えられているのは，化石として知られている多くの草食動物が日本に棲んでいた頃の名残であろう。マンセンカラマツ，カザグルマ，オキナグサ，キスミレ，タチスミレ，マツバニンジン，ヌマゼリ，オオヤマカタバミ，ヒメユリなど絶滅が危惧されている大陸系草地生植物にとっては，日本は年中水分条件に恵まれて，森林が発達するようになった為に，放置されると植生の自然遷移の進行（森林化）が大きい原因であることも忘れてはならない。

日本の草地の多くは，草刈りや火入れなど人間の土地利用によって保たれてきたのである。それが近年ゴルフ場やレジャー施設，ニュータウンの建設などによってこれらの植物は最後のトドメをさされようとしているのが現状である。

引用文献

大阪府．2000．大阪府における保護上重要な野生生物－大阪府レッドデータブック－．大阪府．

環境庁（編）．2000．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　植物Ⅰ（維管束植物）．財団法人自然環境研究センター．

Hara, H. 1952. Contributions to the study of variations in the Japanese plants closely related to those of Europe or North America Part. 1, Journal of Faculty of Science. Univ. Tokyo sect. Bot. Ⅵ : 29－96.

堀勝．1962．大阪府植物誌．大阪府植物誌刊行会．

王文采・王蜀秀．1979．中国植物志 27 巻．科学出版社．